

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●横山典弘騎手がJRA通算3000勝を達成

3月8日(日)の2回中山4日・第9レースとして行われた湾岸Sではマイユニバースが1着となり、同馬に騎乗した横山典弘騎手(美浦・フリー)は、武豊騎手に続いて中央競馬史上2人目・現役2人目となるJRA通算3000勝(2万1852戦目)を達成しました。横山典弘騎手は1986年デビューで今年は41年目。これまで日本ダービー(2009年・2014年・2024年)などGIの28勝を含め歴代2位となる重賞190勝をマークしています。

●手塚貴徳調教師がJRA初出走初勝利を達成

3月7日(土)の2回中山3日・第12レースではレッドレナートが1着となり、同馬を管理する手塚貴徳調教師(美浦)はJRA初勝利をあげました。手塚調教師は本年3月4日(水)に新規開業したばかりで、管理馬初出走での初勝利となりました。

●京都競馬場に藤井聡太永世竜王の記念碑を設置

2025年11月12日(水)と13日(木)、京都競馬場で行われた「第38期竜王戦・七番勝負第4局」に藤井聡太竜王が勝利し、永世竜王の資格を獲得しました。これを記念し、京都競馬場ステーションゲート隣(稲荷社付近)に、藤井聡太竜王直筆の揮毫「雲外蒼天」がデザインされた記念碑が設置されました。公開時間は、京都競馬開催日は午前9時から閉門まで、場外発売日は午前9時20分から閉門までとなっています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ダイオライト記念(船橋)はJRA出身の兵庫所属馬オディロン

ダイオライト記念(JpnII、3月11日、船橋、2,400m)は、中団から追いつけた7番人気のJRA(4勝)から兵庫への移籍馬オディロン(吉村智洋騎手、牡7歳、父キタサンブラック)が、先に抜け出した前2年の覇者セラフィックコール(川崎)を残り50mで捉えて半馬身差を付け、ダートグレード競走初制覇。2番人気のカズタンジャーは3着、1番人気に推されたナルカミは5着、デルマソトガケは6着、逃げたジャスパーロブストは最下位の12着でした。

●ディオニスがスプリングC(水沢)を圧勝【各地の主要3歳重賞】

スプリングC(3月8日、水沢、1,400m)は、4番手から3、4コーナー中間で抜け出したディオニス(牡、父リオンディーズ)が後続を7馬身引き離し、単勝1.1倍の支持に応じて2歳時の金杯(水沢)から重賞を連勝しました。ジュニアグローリー(3月5日、笠松、1,400m)は、先手を取った単勝1.6倍で断然人気の北海道から愛知への移籍馬ミモザノキセツ(牡、父キタサンミカツキ)が、一旦僅かに交わされながらも直線で差し返し、ネクストスター名古屋、ライデンリーダー記念に次ぐ3度目の重賞制覇。土佐春花賞(3月8日、高知、1,300m)は、2番手を追走した2番人気のカツテナイオイシサ(牡、父ヴァンセンヌ)が、逃げた単勝1.5倍で1番人気の2戦2勝馬エンドレステイルをゴール寸前で差し切っています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ランドウィックギニー～牝馬のシーザアリバイが快勝

現地3月7日にオーストラリア・ニューサウスウェールズ州のランドウィック競馬場で行われたG1ランドウィックギニー(3歳、芝1,600m)は、中団を追走したシーザアリバイ(牝3歳、P.ムーディー&K.コールマン厩舎)が直線で鋭く伸びると、最後はG1コーフィールドギニーの勝ち馬オータムボーイに3.2馬身差をつけて優勝しました。牝馬による優勝はこのレースが現在の名称と距離で行われるようになった2006年以降では2012年のモシーン以来2頭目のことです。ディーピンパクト産駒の英2000ギニー優勝馬サクソウォリアーを父に持つシーザアリバイは昨年11月1日のG3ザヴァンティ(芝1,400m)で重賞初制覇を果たすと、11月15日のG2サンダウンギニー(芝1,600m)、そして今年2月の前走G2アングアルマナスコS(芝1,400m)と連勝。重賞4連勝でG1タイトルを手に入れました。なお、鞍上のL.ノレン騎手はこれがキャリア通算2000勝目です。

●G1サンタアニタH～プリティッシュアイルズがG1初制覇

3月7日にアメリカ・カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われたG1サンタアニタH(4歳上、ダート2,000m)はD.エレラ騎手を背に5頭立ての3番手でレースを進めたプリティッシュアイルズ(騾5歳、父ジャスティファイ、R.バルタス厩舎)が直線で楽に抜け出して4馬身半差で快勝。重賞初制覇をG1で飾りました。プリティッシュアイルズは芝からダートに戻った昨年11月のG3ネイティブダイバーSで2着に好走すると、続く今年1月の前走G1ベガサワールドCでは5着に入っていました。